

平成25年度 第7回経営協議会議事要旨

日 時 平成26年1月27日（月） 10時30分～12時10分
場 所 学長室
出席者 (学外委員) 井田委員, 大平委員, 潮谷委員, 陣内委員, 中尾委員
(学内委員) 佛淵学長, 瀬口委員, 中島委員, 宮崎委員, 吉永委員,
稲岡委員
欠席者 (学外委員) 沖田委員, 古川委員
(学内委員) 岩本委員

- ・ 学長から、平成25年度第6回の議事要旨の確認について依頼があった。

【 審議事項 】

(1) 国立大学法人佐賀大学の中期目標・中期計画の変更について

学長から、本件について、国立大学法人佐賀大学の中期計画を変更するために文部科学省へ変更の認可申請を行うものであり、変更の概要について、①地(知)の拠点整備事業採択による変更等、②事務局長宿舍敷地の譲渡、③長期借入金を活用した宿舍整備の改修、④医学系研究科博士課程の定員減(入学定員30人→25人)である旨の説明があり、審議の結果、了承された。

(2) 平成25年度国立大学法人佐賀大学補正予算(第2次)(案)について

学長から、本件について、平成25年度補正予算(第2次)について、収入・支出額の増減に伴う収入・支出予算の補正を行い、退職手当の不足及び学生納付金の減収等予算執行上の諸課題への対応や資金の運用益を活用した教育研究の充実や学生支援等を行うものである旨と、追加財源及び対象事業等についての説明があり、審議の結果、了承された。

(3) 国立大学法人佐賀大学の予算の繰越の取扱い及び目的積立金の取扱いについて(案)

学長から、本件について、現行の「国立大学法人佐賀大学の予算の繰越の取扱いについて」及び「目的積立金の取扱いについて」の見直しを行う案件であり、予算の計画的な執行を促し、予算の有効活用を図るとともに、目的積立金の計画的な執行と有効活用を図ることを目的とするものであり、文部科学大臣への承認申請前に予算の繰越の妥当性を判断して繰越の可否を決定する取扱いに改めることや部局の事業計画については、役員会等の議を経て学長が

決定することとし、併せてその事業計画を変更する場合も同様な手続きを経て決定するしくみを新たに定めること等の説明があり、審議の結果、了承された。

(4) 一般運営費交付金への業務達成基準適用について

学長から、本件は、平成25年度において複数年度にわたる事業に業務達成基準を適用するものであり、業務達成基準を適用した場合の会計処理について、文部科学省の承認が不要であることから翌事業年度当初からの執行が可能であること、運営費交付金の概略、一般運営費交付金の収益化方法、予算・決算の仕組み及び平成25年度適用される事業3件（附属幼稚園改修工事、医学部改修に係る移転等業務及び高度医療機器更新等事業）について説明があり、審議の結果、了承された。

(5) 佐賀大学職員宿舎整備計画について

学長から、本件について、佐賀大学職員宿舎整備について、改修工事等を行うものであり、職員宿舎について検討してきた経緯及び今後行われる第1期～第3期工事スケジュール、また、第1期工事の平成26年度改修工事として必要となる経費を借用するため、文部科学大臣に対して長期借入金の許可申請を行う予定である旨の説明があり、審議の結果、了承された。

(6) その他

特になし。

【 報告事項 】

(1) 「佐賀大学財務レポート2013」について

学長から、本財務レポートは、平成24事業年度の財務諸表及び事業報告書等に基づき、本学の財務状況や事業活動を広く分かりやすく説明することにより、国民の皆様に、より関心や理解を深めていただくことを目的に作成されている旨、また、その概要について報告があった。

(2) 平成25年度政府補正予算案（佐賀大学関係）について

学長から、本件について、平成25年度政府補正予算案（佐賀大学関係）について報告があった。

(3) 平成26年度国立大学法人佐賀大学運営費交付金予定額（政府案）等の概要について

学長から、本件について、平成26年度国立大学法人佐賀大学運営費交付金

予定額（政府案）等の概要を報告します。

（４）その他

○ 楠葉寮火災の概要について

学長から、平成25年1月11日に発生した楠葉寮火災の概要について、原因、人的被害状況、これまでの対応等の報告があった。

【 意見交換 】

○ 佐賀大学における研究推進について

中島理事から、以下の項目にて、本学の研究推進の説明があった。

・ 研究の現況について

佐賀大学の中長期ビジョンについて、長期的視点に立った基礎的・基盤的研究を推進することで、学術研究の水準向上を図り、組織的な体制の下に重点的に展開し、国際的に高い研究水準を目指す。

佐賀大学の研究支援体制について、本学のブランド研究（最重点）を頂点にピラミッド形式により、自由な発想に基づく研究シーズの発掘から、研究の支援を行い、重点領域研究として本学の強みとしていく。

外部資金の獲得状況の経年変化について、科学研究費、受託研究費、共同研究費及びその他の補助金（文部科学省等から獲得したプログラム等）については、ほぼ横ばいであり、寄附金については、医学部の寄附講座により金額が伸びている。

プロジェクト研究所について、学部を越えた横断的な専任教員が5名以上集まり、バーチャルの研究所を設置し、3年を区切りに自由に研究を行っている。

チャレンジ支援プログラムについて、中堅及び若手研究者に対し、上位の科学研究費補助金へ応募して頂くよう、不採択の場合でも支援を行っていく。

・ 研究推進方策の検討

COC研究拠点について、地域、学生及びスタッフに魅力のある大学として、研究者及び若手研究者の支援を推進し、様々な課題の解決に向けて取り組んでいく。

学長から、大学の取り組みを基に、美術館開館、佐賀県との連携（有田窯業

大学校の4年制化)、附属病院の再整備、最先端医療の提供、重点領域研究の推進、佐賀大学のブランド商品の紹介、認知症総合サポート事業、地(知)の拠点整備事業等の紹介があった。

次いで、意見交換を行い、委員から次のような意見等が出された。

(●は学外委員の意見等、○が学内委員の説明等)

- 女性研究者の支援事業というのは、男女共同参画の視点から取り組むということであるのか。
- 若手研究者及び外国人研究者と同様に女性研究者を増やしていくことも本学の課題の1つであると考えている。
- 女性研究者のロールモデルを考えることも含め、総合的な視野の広がりを含め検討して頂きたい。

- レンコンの効果性を研究した成果について、もっとアピールしていくことが必要だと感じた。
- 農学の分野については、遺伝子研究を積極的に行っていきたい。また、医療人不足を含め、人材育成を行い、キャリアアップを図ることも検討している。そのような仕組みを作ることで、本学を目指す学生を増やしていきたい。

- 日本全体が高齢化社会の中で、在宅医療について経済的に支援を行い、病院完結型から地域完結型へと移行していると感じている。
- 厚生労働省から、急性期経過後の医療人を育てることを求められており、亜急性から慢性及び介護にかかる医療人の育成を行う必要があり、特に在宅支援については、看護師の力が必要であり、看護師も育てていきたい。

- 地域というのは、佐賀という単位で捉えてよいのか。
- 学生の入学及び就職等を視野に入れた福岡の南部及び長崎の一部を考えているが、単位で考えた場合は佐賀県を想定している。ただし、すべてを佐賀県に限定して考える必要はないと考えている。

- 佐賀大学の研究について、地域の中で、アイデア(シーズ)を集める仕組みや研究にしていく体制を整備し、大学の核となる研究を作っていく必要があるのではないか。

- 大学が持っている資源をいかに活かすかを考えた場合、本学はプロジェクト研究所の体制を作っており、横断的なチームにより研究を行い、アイデアを集め、研究が進んでいくにつれて、支援を行っていくことを考えている。

【 その他 】

- ・海洋エネルギー研究センターの研究費について
学長から、海洋エネルギー研究センターの予算の内訳等について説明があった。

以 上